糸掛け曼荼羅ワークショップ

糸掛け曼荼羅とは、板に打ちつけ たピン(釘)に糸を掛けていき、曼荼 羅のようなデザインにしたものです。 3回シリーズで、糸掛け曼荼羅の 作り方を基本から応用まで学ぶ ワークショップを開催します。





- ○各回で別の作品(20~30cmサイズ)を作ります。
- ○各回ごとの参加でも構いませんが、初めての方は、 できるだけ1回目のワークショップにご参加ください。

渡部 靖之 講師

2016年、ネットで初めて糸掛け曼荼羅を知り、見よう見ま ねで作り始める。その魅力にはまり、様々なサイズの作品を制 作。その数100点以上にのぼる。2022年6~7月、県総合社 会教育センター階段ギャラリーで作品を展示。

10月22日(土) 第1回

第2回 11月19日(土) 第3回

12月3日(土)

- ・釘の打ち方
- ・糸の掛け方 ・標準的な
- 曼荼羅の作成



いろいろな掛け方①





・いろいろな掛け方 ②





- ※時間はいずれも 10:00~12:00
- 場 所:青森県総合社会教育センター 4階 第2多目的研修室
- 材料費:各回とも1,000円(板、釘、糸代として)
- 持ち物:金づち、糸切りばさみ、ラジオペンチ、作品の持ち帰り用袋
- 定 員:各回10名 ※各回とも、定員に達し次第締め切ります。
- *当日は適切なマスク着用でご参加ください。 風邪症状のある方、熱のある方は参加をお控えください。
- *検温、アルコール消毒にご協力ください。

お申込み・お問い合わせ

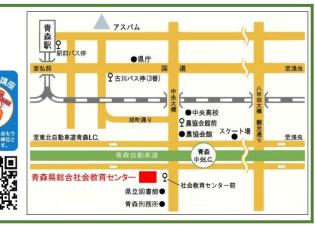
青森県総合社会教育センター あおもり県民カレッジ事務局 〒030-0111 青森市大字荒川字藤戸119-7

TEL 017-739-0900 / FAX 017-739-2570 メール:alis02@jomon.ne.jp

主催:青森県総合社会教育センター

(講座運営:指定管理者:豊かな学びを育む青い森グループ)

https://www.manabi-aomori.com



糸掛け曼荼羅の世界へようこそ!

糸かけ曼荼羅は、オーストリアの哲学者ルドルフ・シュタイナー(1861~1925)が提唱した「シュタイナー教育」で用いられた学習方法がルーツと言われています。シュタイナー教育では、板に釘を打ち、それに糸をかけていくことで、足し算、掛け算、素数などを学んでいました。

円形に打ったピン(釘)に「素数」の数ずつ糸をかけていくと、糸をかけ始めた最初の釘に必ず戻ってきます。そこには張られた糸が織りなす幾何学模様ができています。 糸の色、素数の数を変えながらこれを繰り返していくと、いつの間にか「曼荼羅※」に似た模様ができあがっていきます。

今では糸かけ曼荼羅は、シュタイナー教育を離れそれ自 体を楽しむようになっています。

※「曼荼羅」とは、仏の悟りの 世界を表した密教独自の











◆ 何色の糸を選びますか?







◆様々なバリエーションが 楽しめます!

「正方形に円」というのが曼陀羅の基本形ですが、糸掛け曼荼羅では、 それにこだらわず様々な応用を楽しむ ことができます。また、形だけでなく、 板の大きさ、材質や糸の種類も自由です。 こうなると、糸掛け曼荼羅とい

うよりは、「糸掛けアート」 とか「ストリング・アート」 などと呼んだほうがいい のかもしれませんね。

糸掛け曼荼羅

糸掛け曼荼羅の最も重要な要素は 「糸の色」です。

何色の糸を選んで糸かけしていくか。 全体のバランスを考えながらも、その 時の気持ち、気分によって糸を選んで いきます。かけてみてから、やっぱり この色じゃなかったなあと思うことも ありますが、その際は迷わずやり直し ます。人間の心理はみんな異なります から、全く同じ糸かけ曼荼羅というの はあり得ません。

どの作品も世界に一つなのです。



<作者紹介>

渡部 靖之 (Watanabe Yasuyuki)

2016年、ネットで初めて糸掛け曼荼羅を知り、見よう見まねで作ってみる。すぐにその魅力にはまり、様々なサイズの作品を制作。その数100点以上にのぼる。そのうち通常の板だけでなく、古い戸棚の扉や電気スタンドの底板、桶や釜のふた、引き出し、お盆、白樺などの木の枝をスライスしたもの、ボタンなど、様々な種類のものに糸掛けするようになった。糸掛け曼荼羅はつくづく奥が深いと感じています。